

ナーシング・サイエンス・カフェ

<公開シンポジウム>

「初等・中等教育における「いのちの教育」に関わる看護からの提言」

主 催：日本看護学教育学会

共 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会

日 時：平成22年8月1日（日） 9：00～11：30

場 所：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）会議室 1008

■開催趣旨

文部科学省は、初等・中等教育において「生きる力」をキーワードとした学習指導要領の改訂を行い、将来の超高齢社会を見据えた「いのちの教育」を大事にする指導指針を示した。このことは看護学にとっても、次世代の超高齢社会を支え、担う人材育成の観点から重要な課題である。とくに次世代を担う子供たちの初等・中等教育が、ケアに携わる人材育成に対して、どのような教育目標を掲げて、その指針が示されているのだろうか・・・との疑問に至った。そこで、「生」や「死」、「いのちの教育」に関連する文言について、改訂された新学習指導要領の内容分析を行った。その結果、「いのちの教育」や「生きる力」を大きな理念として掲げてはいるものの、人間の生死や、命にかかわる語彙があまりに少ない結果であった。

最初のシンポジストである川口氏には、担当班長として、改訂前後の学習指導要領を分析し、その結果を受けて、看護が担っていくべき次世代に向けて果たすべき役割について問題提起をしていただく。次に、日本看護学教育学会を代表し、和住氏には、看護学教育の立場からシンポジウム標記の課題について、とくに看護の教育制度やカリキュラムの観点から現状をお話しいただき、今後の看護専門職が、どのような形で社会的な役割を担っていく必要があるかについて報告いただく。また、園芸環境学を専攻し、千葉大学長であった古在氏には、国立大学法人の移行期にあって、教養教育の充実や大学の国際化に向けて、大きな改革に取り組みされた経験、および国立大学法人のなかで唯一の看護学部および園芸学部を有した千葉大学の前学長として、次世代を担う看護に期待することについて、率直なご意見をいただく。

さらに看護界において、実務者として、教育・研究者としての実績を有している聖路加看護大学長の井部氏には、高度な看護専門職を育成する大学教育の実情を踏まえ、現状の入学生の看護基礎教育以前の問題点と課題についてご報告いただき、初等・中等教育に求められるいのちとケアの視点についてお話をいただく。さらに文部科学省の看護教科専門官の大橋氏には、まさしく「いのちの教育」や「生きる力」を標榜している新学習指導要領のなかで、看護学が教科目としてどのように位置づけられるのか、さらには、初等中等教育のなかで、今後どのような方向性を持って看護教科が位置づけられる必要があるかについてお話しいただく。

以上、この公開シンポジウムでは、日本学術会議の看護学分科会で検討されている「いのちの教育班」の、初等・中等教育の在り方の議論を踏まえ、将来的展望に立って、看護がどのような社会的な役割を果たしているのか、さらに将来において、どのような新たな役割を担っていく必要があるのかについて、日本学術会議の役割である政策提案につながる方略について模索したい。

（文責：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会「いのちの教育班」：川口孝泰）

■挨拶

座長 南 裕子（日本学術会議会員、近大姫路大学長）

■シンポジストによる講演

- （1）川口孝泰（日本学術会議連携会員、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）
- （2）和住淑子（日本看護学教育学会理事、千葉大学大学院看護学研究科准教授）
- （3）古在豊樹（日本学術会議連携会員、千葉大学客員教授・前千葉大学長）
- （4）井部俊子（日本学術会議連携会員、聖路加看護大学長）
- （5）大橋泰久（文部科学省初等中等教育局 教科調査官）

■総合討議